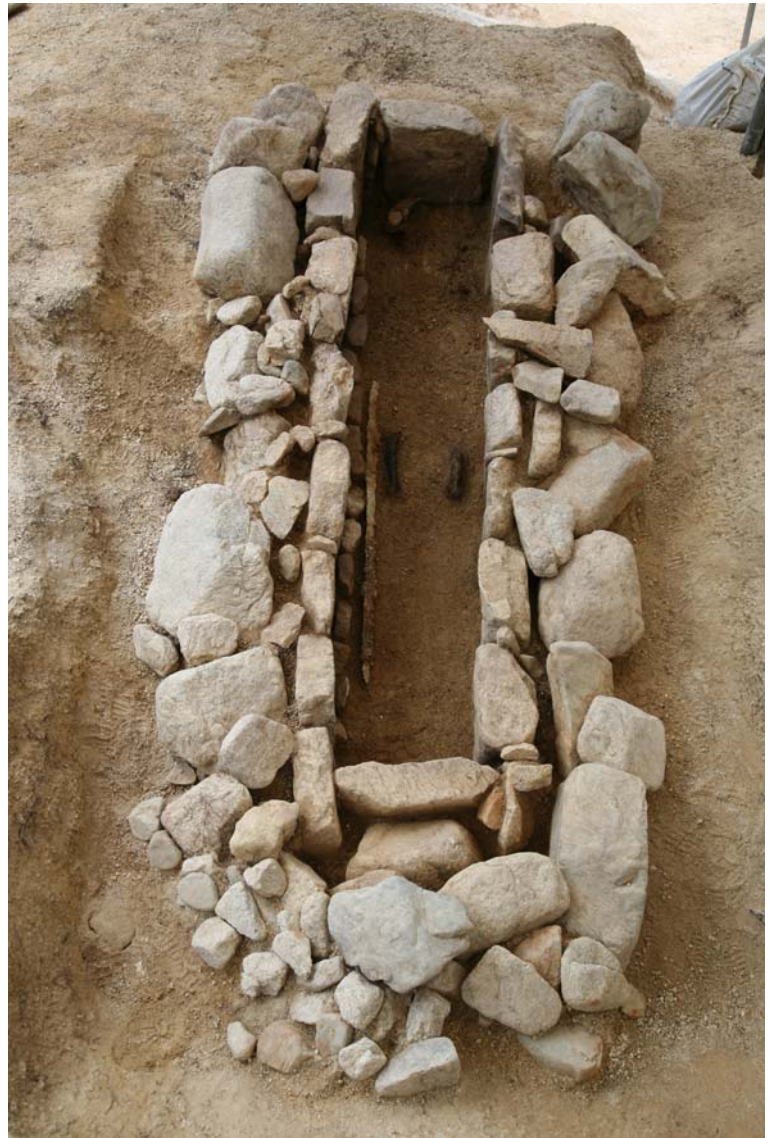


こ や い ぬ や ま だ に こ ふ ん
古谷犬山谷古墳

遺跡名称 古谷犬山谷古墳
 調査場所 今治市古谷乙81-1
 委託者 愛媛県東予地方局
 調査主体 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 調査期間 平成23年8月1日～9月22日(予定)
 調査面積 150m²



北石棺

古谷犬山谷古墳は、^{たきがわ}多岐川総合流域防災工事の最中に発見されました。緊急に発掘調査を行うこととなり、8月より9月下旬までの予定で発掘調査を行っています。この古墳は今まで全く知られていなかった古墳で、工事中に発見されたため、その一部は破壊されてしまいましたが、破壊を免れた部分は大変に良い状態で残されていました。

古谷犬山谷古墳の真下の谷には^{しきないたいしゃ}式内大社である多伎神社が鎮座し、その境内や裏山の斜面には古墳時代後期(6～7世紀)の^{ぐんしゅうふん}群集墳である^{たきのみや}多伎宮古墳群が築かれています。古谷を含む旧朝倉村には古墳時代中期以降、多数の古墳が造られており、県内でも有数の古墳の密集地として知られています。

調査の結果、古谷犬山谷古墳は古墳時代中期(5世紀中頃)に造営された古墳であることがわかりました。墳丘は西から東へのびる丘陵の先端部付近を堀切状にカットして^{しゅうこう}周溝を設け、地山を削って整形した一辺約10m四方の^{ほうふん}方墳で、墳丘中央に^{いがい}遺骸を埋葬する施設として二基の^{せつかん}石棺が設けられていました。石棺は頭位を東へ向けて南北に並置され、それぞれの石棺内部からは人骨とともに^{たち}大刀が出土しました。大刀は北石棺では被葬者の右脇に、南石棺では^{ひとふ}両脇に一振りずつが^{きっさき}切先を足下へ向けて置かれ、大刀と^{そくへき}側壁との間には^{こぶしだい}側壁沿いに拳大の小石が規則正しく列べられています。また、北石棺は石棺を包み込むように人頭大の石が配置される特徴的な構造をしています。南石棺では^{せきしよくがんりょう}側壁や天井に赤色顔料が付着していますが、その一部に顔料を含んだ^{ゆうきしつ}有機質が観察できることから、遺骸を布や革などで覆うか包むかしていた可能性などが考えられます。また、両方の石棺内から人骨が出土していることから、科学的な分析によって、被葬者同士の関係も明らかになる可能性もあります。

今回の調査では、その墳丘形態が方墳であることや二基の埋葬施設が並置されるといった点、あるいは特徴的な石棺構造であるなど、希少な例であることに加え、埋葬時の具体的な状況や当時の^{そうそうざい}葬送儀礼、さらには古墳を造った集団や被葬者の人物像などにせまりうる、きわめて貴重な成果を得たと言えます。

墳丘と埋葬主体



北石棺 大刀・大腿骨が出土



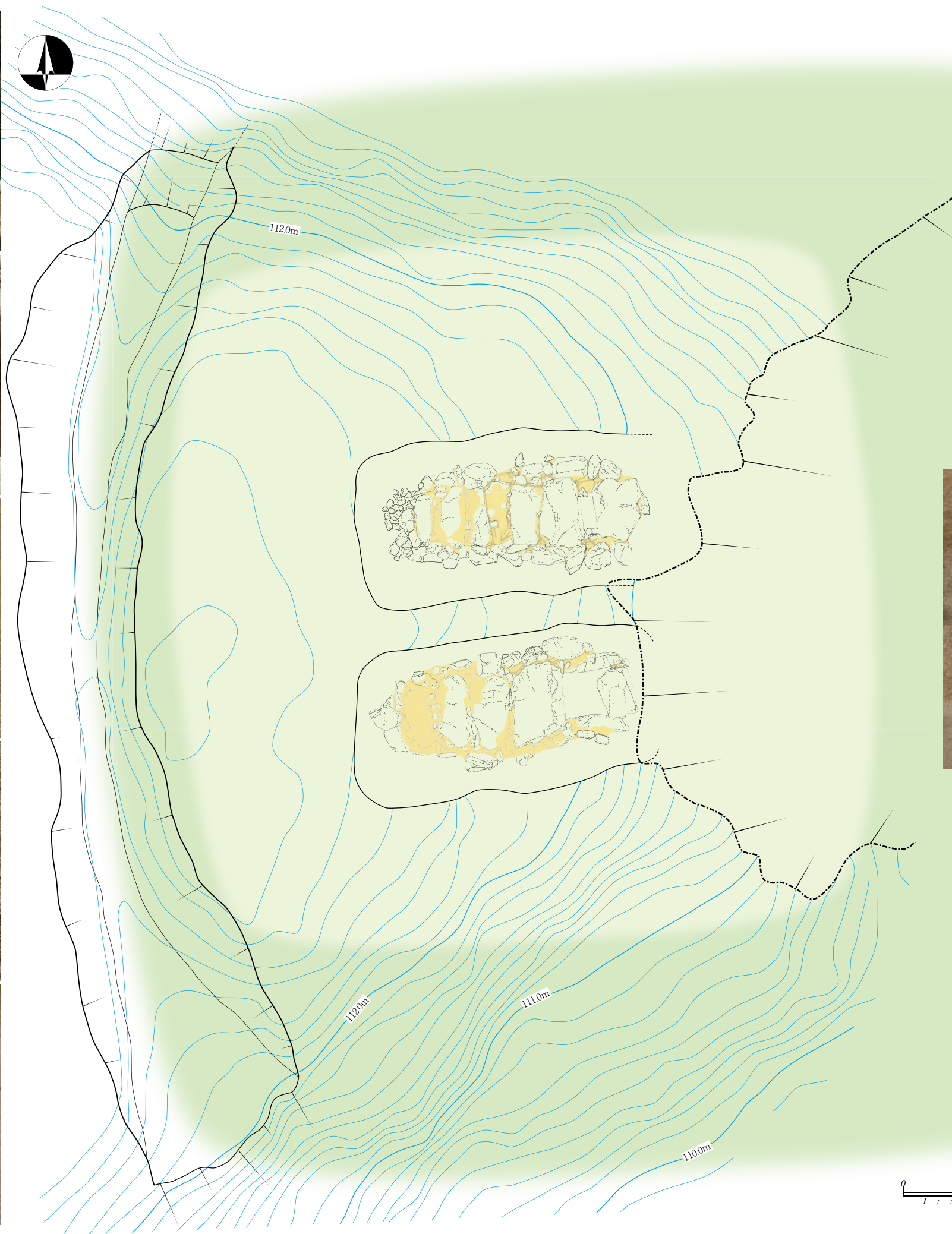
北墳丘から大刀が出土



周溝



南石棺天井に付着した赤色顔料



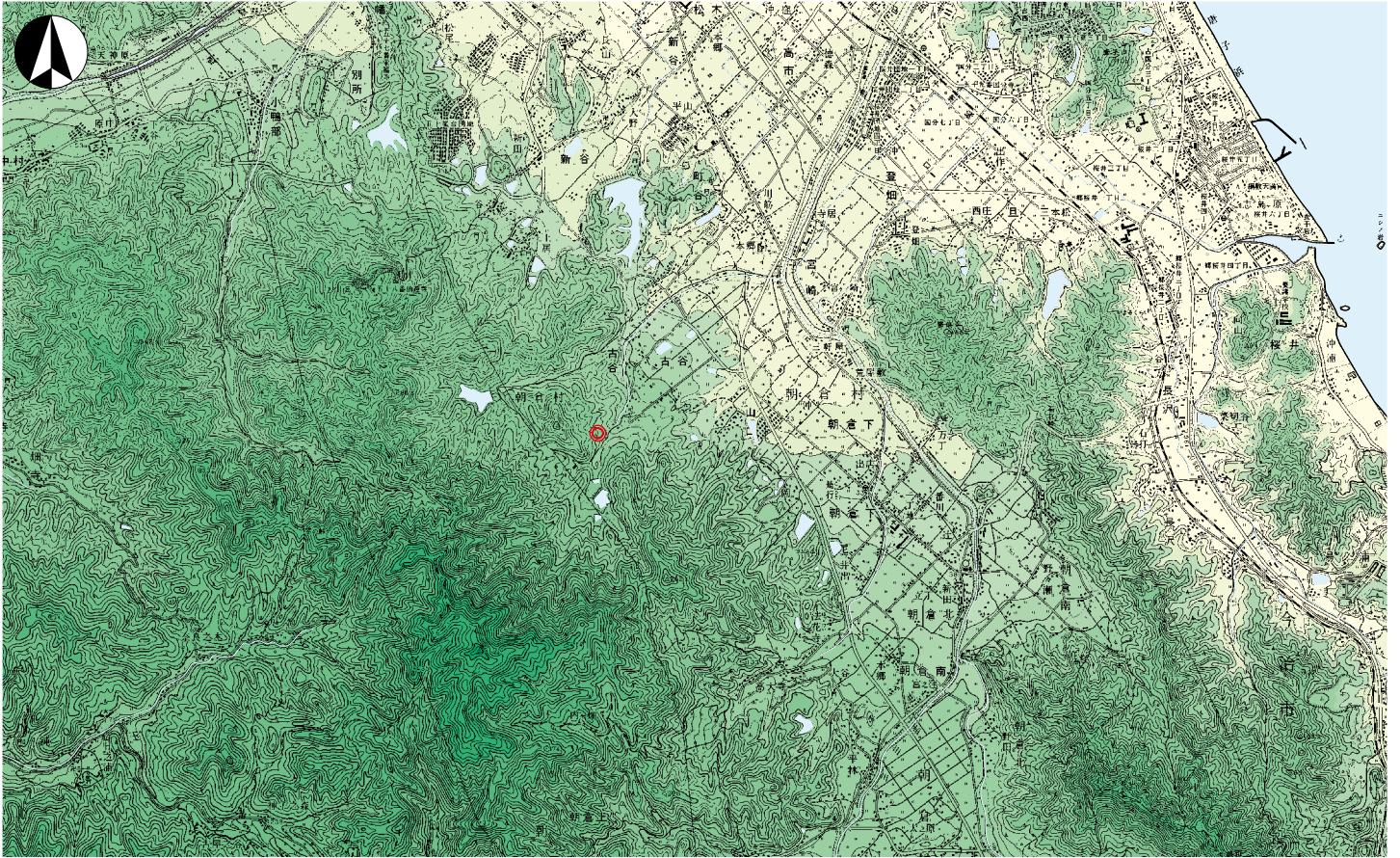
北石棺の目張粘土を除去したようす



石棺の隙間を粘土で目張している



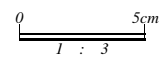
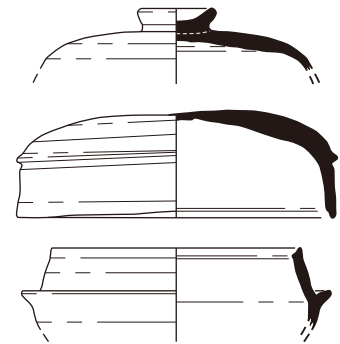
南石棺目張粘土を除去したようす



遺跡の位置



南石棺



墳丘から出土した須恵器